

(様式 1)

和歌山県岩出市
端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
① 児童生徒数	4 2 0 6	4 0 5 8	3 9 7 2	3 8 8 1	3 8 5 1
② 予備機を含む 整備上限台数	0	4 6 6 6	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	4 0 5 8	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	4 0 5 8	0	0	0
⑤ 累積更新率	0	1 0 0 %	1 0 2 . 1 %	1 0 4 . 5 %	1 0 5 . 3 %
⑥ 予備機整備台数	0	6 0 8	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	6 0 8	0	0	0
⑧ 予備機整備率	0	1 5 %	0	0	0

※①～⑧は未到来年度等にあつては推定値を記入する

(端末の整備・更新計画の考え方)

令和 7 年度に令和 2 年度に購入にて整備した端末の更新を行います。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：4 7 6 7 台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 1 0 0 台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にも再使用・再資源化を委託 : 0 台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にも再使用・再資源化を委託 : 4 6 6 7 台
- ・その他 () : 0 台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する○

○スケジュール (予定)

令和 7 年 4 月 処分事業者 選定

令和 7 年 1 0 月 新規購入端末の使用開始

令和 7 年 1 1 月 使用済端末の事業者への引き渡し

(様式2)

和歌山県岩出市
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

岩出市の学校数	: 小学校 6 校、中学校 2 校
	合計 8 校
ネットワーク速度が確保できている学校数	: 小学校 6 校、中学校 2 校
	合計 8 校 (100%)

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

文部科学省が設定している「学校規模ごとの当面の推奨帯域」については、簡易計測において満たしているものの、体感調査において不足を感じている学校がある。

令和6年12月までに課題のある学校について、プロバイダ契約の変更により、セッション数を増やすことで改善できることが分かっている。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

令和8年度以降にプロバイダ契約の変更または、回線契約の変更を予定

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

令和8年度以降にプロバイダ契約の変更または、回線契約の変更を予定

(様式 3)

和歌山県岩出市
校務DX計画

1. クラウドツールの活用

校務の情報共有や連絡手段として、依然として紙・メールが使用されています。

教育委員会・学校で統一的に活用するクラウドツールを選定し、クラウドツールの利用ガイドラインを作成します。また、教職員向け活用研修や情報セキュリティに関する研修を実施するとともに、クラウド活用に関する成功事例を共有し、導入への理解を促進と安全な運用を目指します。

2. FAXによるやり取り・押印の見直し

学校間、教育委員会との連絡でFAXが依然として利用されている。押印不要の書類に押印していることがあり、ペーパーレス化を妨げている。

教育委員会と学校間の公文書の電子化を推進し、FAXを段階的に廃止します。また、押印が不要になった書類について周知徹底します。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

現在、新入生の名簿データが手入力されることがあり、教職員の業務負担となっているため、CSVファイルを用いた校務支援システムへの入力方法の周知徹底することで、1年以内に名簿データの手入力作業ゼロを目指します。

4. 望ましい校務のあり方と次世代校務システムへの移行

現行校務支援システムの令和10年度の更新タイミングを考慮し、パブリッククラウドベースの新システムへの移行を目指します。移行に際しては、他自治体の先行事例を参考にし、移行時の課題と対策を事前に整理した上で、教職員向けの研修を実施し、新システムへの適応を支援します。

5. 校務における生成AI等の活用

リーディングDXスクールの生成AIパイロット校の取組を参考とし、各種通信のたたき台や挿絵の作成等、生成AIを活用した校務の効率化を推進します。

(様式4)

和歌山県岩出市
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「生涯にわたって能動的に学び続ける力」の育成のため、一人一人の子供を主語にした学校教育の実現を目指します。1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進し、複線型の授業を展開することで、自立した学習者の育成を図ります。

2. GIGA第1期の総括

令和2年度から1人1台端末が配備され、授業の中で端末を活用することは日常となったことで学習環境が劇的に改善されました。コロナ禍においては、児童生徒が物理的に距離を取りながら学習することを余儀なくされましたが、端末と大型提示装置の活用により、安全かつ即時的に情報や考えを共有することが可能になりました。学級閉鎖や家族の新型コロナウイルス感染症罹患による自宅待機期間においても、オンライン交流やオンライン学習を行うことで、児童生徒の学びを継続することができました。また、端末の活用が進むにつれて、児童生徒のタイピング速度も向上が見られました。

今後は、授業内での端末活用方法について、情報の検索や意見交流に終始することなく、個別最適・協働的な授業を展開するべく、国の事業等を活用し、推進校を中心に授業改善の取り組みを広げていきます。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

各校の教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的・定期的を実施します。

ICT機器に造詣が深いICT支援員を導入し、ICT機器の校務への活用や授業実践事例等の蓄積・情報共有を行います。

端末の家庭への持ち帰りを日常化し、デジタルドリルや授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用します。

利活用の推進にあたっては、子供たち一人ひとりが情報のもつ力を正しく理解し、適切に判断して行動できる力をもつことが必要です。デジタル・シティズンシップ教育を推進するためには、学校だけではなく、家庭の役割も非常に重要なことから、保護者に情報モラルについて周知啓発します。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

子供たちが自らの考えで、目的や場面に合わせて端末を効果的に活用し、課題を発見・解決する力を育成します。

そのため、クラウドを活用した主体的・対話的で深い学びを推進し、教員がICTを効果的に活用できるよう授業改善を進めていきます

また、児童生徒の情報活用能力やタイピングスキルの向上についても、各校で取り組みを図るよう支援していきます。

(3) 学びの保障

不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、教育支援センターからのオンライン授業への参加や、自宅でのデジタルドリルを使った自主学習等、多様な場面で端末を活用していきます。